

市長記者会見記録

日時：2016年5月20日（金）午後2時00分～2時09分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：平成28年第2回川崎市議会定例会議案概要について
(総務企画局、財政局)

<内容>

《平成28年第2回川崎市議会定例会議案概要について》

司会： それでは、ただいまより市長記者会見を始めさせていただきます。

本日の議題は、平成28年第2回川崎市議会定例会議案概要についてでございます。

それでは、市長からご説明をいたします。福田市長、お願いいたします。

市長： よろしく申し上げます。

それでは、平成28年第2回市議会定例会の準備が整い、5月27日金曜日招集ということで、本日告示をいたしました。

今定例会に提出を予定しております議案は、条例9件、事件9件、補正予算1件の計19件、また、報告15件でございます。

今議会の主な議案といたしましては、まず、議案第99号「川崎市立学校の設置に関する条例の一部を改正する条例の制定について」でございますが、市立商業高等学校の学科改編に伴い、校名を川崎市立幸高等学校へと変更するために改正するものがございます。

市立商業高等学校の学科改編につきましては、平成19年7月に策定した市立高等学校改革推進計画に基づくものであり、平成29年4月から全日制課程にあるビジネス教養科に加え、普通科を新設いたします。また、同校の定時制課程につきましても、商業科を川崎総合科学高等学校の定時制課程に移行し、平成29年3月をもって廃止いたします。

次に、議案第100号「川崎市基金条例の一部を改正する条例の制定について」でございますが、東日本大震災被災者等支援基金の設置目的を拡充し、その名称を大規模災害被災者等支援基金に変更するものがございます。

当該基金につきましては、東日本大震災の被災者等に対する支援事業の資金を充てるため、平成23年4月に設置したものでありますけれども、このたびの熊本地震による多数の被災者等に対する迅速な支援が求められている状況において、また、今後

大規模災害が発生した場合に備え、市民や市内の企業及び団体等からの寄附金を主な財源として、被災者等に対する支援事業の資金を充てるため、その名称を大規模災害被災者等支援基金とするものでございます。

なお、東日本大震災のためにいただきました寄附金は、引き続き当該大震災の被災者等の支援に、また、熊本地震のためにいただきました寄附金は、当該地震の被災者等の支援のために活用いたします。

次に、議案第107号「南武線津田山駅自由通路新設及び橋上駅舎整備工事委託等契約の締結について」でございますけれども、本工事は、鉄道による地域分断の改善や、踏み切りを横断する駅利用者や通学する児童の安全性・利便性の向上を図るため、自由通路及び橋上駅舎を整備し、あわせてエレベーターなどのバリアフリー施設を設置するものでございます。

今後、JR東日本と施行協定を締結した後、工事に着手いたしまして、平成31年度の完成を目指しております。

次に、議案第110号は一般会計の補正予算でございます。

内容といたしましては、先ほどご説明いたしました、市民の皆様から寄せられるご寄附を基金に積み立てた上で、それを活用して、平成28年熊本地震の被災者等の支援を行うものや、今年の待機児童数の集計結果を踏まえ、来年4月の待機児童解消に向けて保育所の追加整備に取り組むなど、7事業で、補正額は13億7,300万円余でございます。

いずれの議案につきましても、川崎市政にとって重要なものばかりでありますので、議会の皆様とは真摯に議論をさせていただき、両輪となって市政を運営していきたいというふうに思っております。

私からは以上です。

司会： それでは、本日の議題についての質疑応答に入らせていただきます。

進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いいたします。

幹事社： 幹事社です。では、幹事のほうから1点。

補正予算で、保育所整備事業費、いわゆる本年度1,390人、整備するという計画が、あれ、5カ年計画ですかね、盛り込まれていて、それを500人上回る補正を組むということなんですけれども、去年は組んでいないですよ、6月補正、9月補正もですか。

市長： はい。

幹事社： この500というボリュームは結構なボリュームだと思うんですけれども、

改めて、これぐらい追加する必要性を感じられたと思うんですけども、この辺の説明をちょっとしていただけますか。

市長： この前の待機児童数を発表させていただいたときにも少し申し上げましたけれども、やはり川崎に転居されている方、人口も増え続けているし、子育て世代が多ということで、保育需要が非常に高まっていると。想定以上にその必要性というものが出てきているということだと思います。

それに向けて確実に、今年待機児童解消にならなかったわけでありましてけれども、確実に解消できるような方策として、しっかりと整備していく必要があると、そういった趣旨で補正予算を組まさせていただいております。

幹事社： ちなみに、500人というボリューム感としては、どうしてこのボリューム感になったのかというあたりは、何か……。

市長： これまでのさまざまな分析などを細かくやっておりますので、それに基づいてということでございます。

幹事社： わかりました。

では、各社、どうぞ。

記者： よろしいですか。今の保育所整備に関係することで、確かにすごい、1,390人と505人合わせて1,890……、約1,900人分。これは全て民間ですよ。提案型ですよ。

市長： そうですね。

記者： ほんとに市が土地を用意するわけでもなく、これ、きちんと整備できる見通しはあるんでしょうか。

市長： しっかりそれに、皆さんに整備していただけるように、計画というものをしっかり立てて取り組みを始めるところですので、その方向性も各区、細かい調整をしながら進めているところであります。

記者： 整備がきちんと、1,900人分できるという見通しのもとに、このような事業費を計上するということですか。

市長： そうですね。

記者： 昨年度末の議会に対応していくというお話だったので、これはしようがないことなんですけれどもという前振りがあって、今回、等々力球場の契約議案が来ましたが、入札の不調があって、ほかにも結構不調が起きています。等々力球場のやつは、調べてみると、数億円規模で当初の予算よりか多くなっていて、この先、大型事業をいろいろと控えて、例えば本庁舎もそうですし、羽田連絡道もそうですし、こういっ

たかかり増しが懸念されると思うんですけれども、どういうぐあいに入札不調、これはもちろん市だけのせいではないと思うんですが、入札不調を回避して、財政規律を保つためにも必要なことだと思うんですが、その方策は何かありますか。

市長： いや、もう、この前もちょっとお話ししているかもしれませんが、これをやれば必ずというふうな万能策というのはなかなか難しいんだと思いますけれども、しかし、入札不調によって工事が延期されるみたいな話になると、市民に影響を大きく与えてしまいますので、そういった重大性に鑑みて、しっかりと積算含め、やっていきたいと思っています。

記者： それしかないですもんね。わかりました。

司会： いかがでございましょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355